

令和4年度

事業計画書

学校法人 **廣池学園**

目 次

I. 部門別事業計画

1	麗澤大学	1
	1. 重点目標	
	2. 主な事業計画	
2	麗澤中学・高等学校	3
	1. 重点目標	
	2. 主な事業計画	
3	麗澤瑞浪中学・高等学校	5
	1. 重点目標	
	2. 主な事業計画	
4	麗澤幼稚園	7
	1. 重点目標	
	2. 主な事業計画	
5	法人	8
	1. 重点目標	
	2. 主な事業計画	

II. 組織

1.	役員・評議員	9
2.	組織図	10
3.	教職員の構成	11

III. 予算

1.	資金収支予算	12
2.	事業活動収支予算	13

I. 部門別事業計画

1 麗澤大学

18歳人口の減少にともない、大学の志願者数と入学者数がほぼ同じになる「大学全入」時代が近づきつつある。麗澤大学は、「世界と日本から真に存在が期待されるコンパクトだがキラリと光る大学」をありたき姿とする「麗澤大学 Vision2035」を掲げ、2024年度に工学部と経営学部を新設し、規模は小さいが特色のある総合大学を構想している。

1. 重点目標

- 1) 2020年度からスタートした中期計画を着実に実行するとともに、「小規模にこだわる。国際性にこだわる。」をスローガンに、Vision2035の具現化を推進する。
- 2) 学生募集の安定化と志願者の高学力化、多様性のある人材育成に取り組むため、2024年4月に新設を構想している工学部、経営学部の設置準備を進める。
- 3) コロナ禍において、教育の質を向上しつつ、効率的な学校運営を図るため、経営・教育・研究基盤を安定させる。

2. 主な事業計画

(1) 教育活動

- 1) 3つのポリシーに基づき、教育課程編成・カリキュラムマップなどの適正化を図る。
- 2) FD活動を展開し、クォーター制度の運用と100分授業の効果的な実施等の教育改革を行う。
- 3) 基盤教育機構を設置し、2024年度に向けて全学教育の実質化を図る。
- 4) 教務システムの変更に向けた準備を進める。教育活動の効率化、学生指導の充実を図る。
- 5) オンライン授業の効果的な実施、学生必携PCの活用を実現する教室設備の充実を図る。
- 6) 次期、麗澤大学情報教育システム整備計画の情報収集および仕様検討を行う。
- 7) ICT問い合わせ窓口ヘルプデスクの対応業務を分析し改善を図る。
- 8) Google Workspaceの活用事例の知見を蓄積する。

(2) 研究活動

- 1) 産官学連携・地域連携による共同研究、科研費等の外部資金による研究活動を促進する。
- 2) 教員の研究を支える体制作りを進める。

(3) 学生支援活動

- 1) 学生満足度向上のため、調査等を行い、学生生活環境（キャンパスライフ・寮）を改善する。
- 2) 学生の自主性・主体性の醸成を促進するため、学生支援体制を見直し、改善を図る。
- 3) 大学生生活に必要な情報を学生が効率的に収集できるよう、学生生活に関連する情報を精査し、情報提供体制を整備する。どこを探せばどの情報が入手できるか、内部広報を活性化させる。
- 4) 学生相談室の諸活動を通じて、大学全体の学生支援ネットワークの構築や教職員の学生支援力の向上に寄与する。
- 5) 改正障害者差別解消法による「合理的配慮」の提供義務化に向け、教員マニュアル掲出情報を見直すとともに対応要領（ガイドブック）を整備する。

(4) グローバル教育活動

- 1) 国際交流センターを中心に、グローバルビジョンを再構築し、学内の国際化および留学派遣、受入プログラム等の質的向上策を実施する。
- 2) COIL・Moocs を導入し、授業にオンラインツールを用いた海外提携校との共同学習を取り入れるとともに、オンライン留学プログラムを導入し、学生に多様な留学プログラムを提供する。
- 3) 提携校に向けた日本語オンライン講座を実施する。

(5) 入試・広報活動

- 1) 志願者（入試区分）毎にきめ細かい情報発信を行い、偏差値の向上と安定的な入学者確保を図る。
- 2) データに基づく効果測定を行い、合理的な広報および募集施策を展開する。

(6) キャリア形成支援活動

- 1) 低学年次からのキャリア形成支援及び就職支援をより一層改善強化し、採用・就職スケジュールの変更や、景気変動に伴う採用環境の変化に振り回されない支援体制の更なる強化を図る。
- 2) 卒業時進路未決定者を一人でも少なくすべく、きめ細かな支援を行い、実就職率*90%以上の達成を目指す。

*実就職率＝就職者÷（卒業者－大学院進学者）×100

- 3) コロナ禍に伴い変化した採用環境に対応すべく、引き続きキャリアセンターのデジタル化及びオンライン体制の充実を図る。

(7) 社会連携活動

- 1) ROCK が開講する生涯学習講座、特別講演会の生涯学習プログラムの充実と健全な運営を堅持し、地域社会のシニア世代へ教育機会を提供する。
- 2) 地域・産業・行政との連携により教育力・研究力および社会貢献力を向上させる。

(8) 大学経営基盤の強化

- 1) 教育活動収支の黒字定着を図る。
- 2) 経営組織と協働し、経営力・ガバナンスを強化する。
- 3) 新しい人事制度、教職員評価制度の早期定着を図る。
- 4) 計画的なキャンパス整備を実施する。

2 麗澤中学・高等学校

建学の精神に則り、国家・社会及び国際社会に貢献できる人材を育成する。この目的を達成するため、教育内容及び教育の質の更なる向上を目指し、ビジョン、中期計画に沿う諸施策を実行する。

1. 重点目標

- (1) ビジョン実現に向けて、本校の教育内容の充実を図る。
 - 1) 2026年度の臨時定員増終了に向けて、中高定員の適正化計画を確定させる。
 - 2) 各学年の進路目標・学習達成目標の実現のため、学年部長を中心に教育内容の充実を図る。
 - 3) 4技能主体の英語教育の充実に向けて、各学年の教育内容の見直しを図る。
 - 4) ICT教育の実用化に向けて、施設整備を進めると共に、教員の活用能力を高めることで、本校の教育の質の更なる向上を図る。
 - 5) 男女寮の教育内容の更なる充実を目指し、寮教育の刷新を図るとともに、女子寮の施設・設備の見直し計画の検討を具体化させる。
 - 6) 女子ラグビー部の強化のため、留学生2名を受け入れ、チーム力向上に努める。
 - 7) 新設の通信制課程の教育内容の充実を図り、新入生・転編入生の確保に努める。
- (2) ビジョン実現に向けて、本校の広報戦略を強化する。
 - 1) 中学入試における募集戦略を見直し、より質の高い入学生を確保する。
 - 2) 高校入試においては、塾・中学訪問強化に努め、志願者増に向けての諸方策を実施する。
 - 3) 校内外の広報イベントの見直しを図り、塾や外部機関との関係強化を行う。
- (3) 教職員の職場環境・勤務体制の更なる充実に向けて、働き方改革を更に推進する。
 - 1) 現在推進中の新しい人事制度改革を受けて、勤務体制の更なる充実を図ることにより、教職員の業務の効率化を推進すると共に、教職員間の業務の適正配分の実現を目指す。
 - 2) 教職員の超過勤務を更に縮減することで、より働きやすい充実した職場環境作りを目指す。

2. 主な事業計画

- (1) 教務
 - 1) 2018年度(令和元年度)に導入した新教務システムの安定した運用を実現し、新中学校指導要領・新高校指導要領に則した運用の改善に務める。
 - 2) 教員の採点業務効率化のため、2022年度より正式導入するデジタル採点ソフトの利用を普及し効率化を図る。昨年度に引き続き、定期試験へのマークシート形式導入を普及する。
 - 3) 2023年度の中学校5クラス体制完成年度に向け、教室・備品の整備を進める。
- (2) 進路指導・学習指導
 - 1) 一人ひとりの進路実現に向けて、5人に1人の国立大学合格者（東大・医学部を含む）の志ある現役合格者を育て上げることで、次代に貢献できる人材を輩出する。
 - 2) 早慶上理40名以上、MARCH50名以上の志ある現役合格実現に向けて、6年間あるいは3年間の麗澤教育の集大成にふさわしい結果を出すべく、学校を挙げて努力する。
 - 3) 学力到達目標実現に向けて、学習指導チームおよび進路指導チームによる前年度施策の検証を行い、学年部長を中心に、担任・授業担当者が指導力向上と成果結実に努める。
 - 4) 中学1、2年生および高校4年生の初期指導を強化することで、基礎学力の向上に努める。
 - 5) 英語教育について、学年及びグローバル教員との連携を通じて、4技能の総合的・統合的な指導と評価のあり方を研究、推進する。

6) 「校内予備校プロジェクト叡智」の質の向上と安定した運営を継続する。また、生徒の進路実現を支えながら、認定講師陣および授業担当者、担任団の自己研鑽を支援する。

(3) 生徒指導

- 1) 保健室と協力し、感染症対策（手洗い、換気、マスク着用等）についての指導を徹底し、生徒一人一人の感染症予防に対する意識を高め、自主的な実践が可能となるように努める。
- 2) 中学段階における生徒指導に関しての初期指導の充実を図るために、学年と協力して規範意識を育む生徒指導体制を構築していく。
- 3) 登下校中のトラブル防止に努める。公共マナーの指導及び安全指導を徹底する。
バス新路線（南柏駅⇄麗澤中高前）直行便に対応した指導を行う。

(4) 特活指導

- 1) 強化指定部である女子ラグビー部の体制をさらに整える。
- 2) 部活動の複数顧問制と外部コーチ招聘を組合せ、顧問の負担を軽減する。
- 3) コロナ禍でも可能な形の学校行事を継続・推進させる。

(5) 高校男女寮

- 1) 関連部署との連携をとり、女子寮移転に向けての計画を策定する。
- 2) 入寮希望者を増やすために、SNSを活用した寮の広報活動を積極的に行う。
- 3) 進路実績向上を見据えた学習指導体制（部屋構成を含む）の充実を図る。
- 4) 学習効果を高め、かつ魅力ある寮生活実現のために、寮生対象の新教育プログラムを行う。
- 5) 寮体験や部活動の合宿等を寮での実施を計画し、稼働率を上げていく。

(6) ICT教育

- 1) ICTを積極的に活用できる人材を育成する。
- 2) 部門横断でICTを活用する仕組みやプロセスの整備を推進する。
- 3) メディアセンターの図書・情報メディアシステムの充実に向けた改革に着手する。

(7) 入試広報

- 1) 東京・埼玉方面への広報活動を強化し、偏差値の向上と安定的な入学者確保を図る。
- 2) 教育情報を発信するコンテンツ(パンフレット・動画・SNS)を作成し、情報発信を行う。
- 3) 中学および高校の入試日程、入試方法、入試会場等を見直し、生徒募集を積極的に行う。

(8) 通信制課程

- 1) 新たにスタートする通信制の生徒に対し、人間教育・道徳教育を基盤に据え、多様化・複雑化する社会に貢献できる、「生きるチカラ」を身につけさせる教育を展開する。
- 2) 生徒一人ひとりに寄り添い、生徒の進路実現のため、最大限支援し、進学実績に貢献する。
- 3) 2つのコースの特徴を生かした教育内容をブラッシュアップし、STMとして他校との差別化を明確化し、それらを広報活動に活かし、生徒の安定確保を加速させる。

(9) 働き方改革

- 1) 教員の休日を確保するため、年間120日の休日取得の定着を図る。
- 2) 勤務時間を縮減する中で、教員各自の勤務の効率化と適正配分を実現させる。

3 麗澤瑞浪中学・高等学校

建学の精神に則り、道徳教育を根幹にして、寮教育や教科指導、部活動や学校行事の充実を図るとともに、ビジョンや中期計画に沿う諸施策を以下のように実施する。

1. 重点目標

(1) 生徒数の安定確保

- 1) 入試広報チームが中心となり、全校体制で募集活動を展開し寮生の確保に努める。
- 2) 近隣中学校や学習塾への広報活動を積極的に展開し、優秀な通学生の入学者を確保する。
- 3) 全国の塾訪問、企業訪問を行い、全国的な広報活動をより一層推進する。
- 4) 小規模で手厚い教育、高付加価値教育を積極的に広報する。

(2) 寮生活の指導体制の改革

- 1) 教育理念の具現化（目指すべき生徒像の実現）に向けて、寮で行われている教育活動の見直しを行い、諸活動の教育的な意義と効果を再確認、全寮体制で取り組む。
- 2) 朝・夜（スクール TOMAS との連携）の学習体制を充実させ、自律的学習者の育成を目指す。
- 3) チューターの勤務体制や業務内容の見直しを図って、勤務環境の改善に努める。

(3) 学習指導体制の充実

- 1) 授業改革・テスト改革を行い、真の学力向上を実現する体制を構築する。
- 2) 中学校から高校まで6ヵ年における各教科の学習指導体制を確立する。
- 3) SGU など選抜性の強い大学への合格率の一層の向上を図る。
- 4) 新しい大学入試制度に対応した学習指導体制を整える。

(4) 部活動の体制見直しと環境整備

- 1) 生徒全員が生き生きと活動できる環境の整備を図る。
- 2) 決められた時間内で実りある活動を行い、学業と両立できる体制を構築する。
- 3) 指導の外部委託、外部コーチの採用を積極的に行い、教職員の勤務環境の改善を図る。

(5) 教職員の資質向上と勤務環境の改善

- 1) 麗澤教育の理解と学習を通じて、教育理念に沿った教育活動の一層の充実を図る。
- 2) 教育者としてのプロ意識を高め、定められた行動指針を実践する。
- 3) 教職員の休日の部活動も含めた時間外勤務を削減できるように、業務内容の見直しと勤務負の適正化を図る。

2. 主な事業計画

(1) 経営戦略

- 1) 中学入学 60 名（寮生 40 名）、高校 105 名（寮生 70 名）を確保し、安定した収入を確保する。
- 2) クラス数を維持した範囲で中学入学 80 名、高校入学 120 名を目指す。
- 3) 高校進学段階での他校受験ゼロ、途中転退学ゼロを目指す。

(2) 進路戦略

- 1) Super Global University (以下 SGU) の合格者を 40 名以上、入学者を 20 名以上輩出する。
- 2) 生徒・保護者・教職員への啓蒙活動を行い、SGU の校内認知度を高めるとともに出張講義、指定校推薦枠の依頼など、SGU との連携を強めていく。
- 3) 総合型選抜、学校推薦型選抜に対応できるように、思考力・判断力・表現力を向上させる体系的な学習プログラムを策定し、実施する。

(3) 教育戦略

- 1) 授業に ICT を積極的に取り入れ、授業の効率化を目指す。考える時間、話し合う時間、問題演習の時間を増やし、生徒が積極的に参画する授業へと質的転換を図る。
- 2) output を重視した英語教育を展開し、英検などの資格取得を推し進める。英単語テストの内容見直しや追試の徹底実施など、下位層を取りこぼさない教育システムを構築する。
- 3) 外部企業とも協力しながら、教科教育、RISE(総合的な探究の時間)、MIETAN、Discovery Saturday の有機的な連動を図る。

(4) 募集広報戦略

- 1) オンラインイベントを積極的に開催し、全国各地の受験生との接触機会を増やす。
- 2) 全国の塾訪問、外部説明会への参加、企業訪問などを積極的に行い、接触者数、イベント参加者数を増やす。
- 3) 教育改革を伝えるコンテンツの作成、メディア(プレスリリース、HP、SNS)を活用した情報発信を積極的に行い、全国における知名度を高める。
- 4) 中学入試(県外廃止、2期を遅らせる等)スケジュールを再検討し、全国からの寮生募集を積極的に行う。

(5) 寮

- 1) 朝学習・夜間学習の充実を図るとともに、業務のアウトソーシングも積極的に検討し、チューターチームの負担軽減を行う。
- 2) 3交代制の試行年度とし、永続的な寮教育体制について本格的な検討を行う。
- 3) 生徒による自治寮の実現に向け、育てたい寮生像を明文化し、生徒の自主性や協働性を育てる経年的な寮生研修制度を策定する。

(6) 特活

- 1) 週末帰宅・Discovery Saturday と整合性の取れる部活動運営方針を策定し、実施する。
- 2) 強化指定部解除がスムーズに実現できるように、生徒募集・活動内容について検討する。
- 3) 教職員数、生徒数に見合う部活動数にするために、整理統合を積極的に進める。

(7) 働き方改革

- 1) 土曜日の活動(部活動、Discovery Saturday、進学講座、自習監督等)は、原則午前中までとし、教員の休日確保に努める。
- 2) 日曜日は、やむを得ない校務および公式試合がある場合を除いて、活動を制限し、教員の休日確保に努める。
- 3) 各チームリーダー・学年主任は部下の職務内容を把握し、19:00以降の居残りが発生しないように努める。

4 麗澤幼稚園

建学の精神に則り、麗澤教育の入り口としての位置づけのもと、園児の生きる力や基礎体力の向上に努める。また、こころを育む教育を土台にした質の高い幼児教育を提供しつづける園を目指し、ビジョンや中期計画に沿った諸施策を実行に移す。

1. 重点目標

- (1) 心の教育と英語教育の更なる充実により、幼稚園の付加価値向上を図る。
- (2) 安定的な経営を目指し、時代の変化を先取りした園運営に取り組む。
- (3) 募集広報活動の見直しと積極的な施策により、園児の安定的確保を目指す。
- (4) 勤務体制、人材育成、キャリアデザインへの取り組みを通じ、働き方改革を進める。

2. 主な事業計画

- (1) 「心の教育」と「英語教育」の更なる充実
 - 1) 自ら考え、主体性をもって行動する力を育てる保育活動の展開
 - ・子どもたちが自発的に活動を展開できる教育環境の設定
 - ・子どもが保育中にプレゼンテーションを行う機会の創設
 - ・基本的生活習慣や、整理整頓を意識づけるための取り組み
 - 2) 英語教育カリキュラムと指導体制のブラッシュアップ
 - ・3年完成プログラムの2年目となるカリキュラムに即したレッスンの実施
 - ・プログラム完成後の成果に対する評価方法の検討
- (2) 時代の変化を先取りした園運営
 - 1) 子育ての森「どんぐり」の安定した運営
 - ・竣工式の実施
 - ・保育室及び子育てホールの運用方法の確立
 - ・安定した保育カリキュラムによるクラス運営
 - 2) 2歳児クラス創設に向けた準備
 - ・2歳児保育の研修及び保育カリキュラムの改善
 - ・運営側の人員確保、人員配置の検討と環境整備
 - 3) 保育料以外の収入の獲得と増大
 - ・子ども子育て支援新制度への移行に向けた取り組み
 - ・内製化の英語課外教室設置に向けた準備
- (3) 募集広報活動の見直しと積極的施策
 - 1) カスタマージャーニーの精緻な把握
 - ・志望者ルートの洗い出し
 - 2) 来園を促す施策強化
 - ・うさぎルーム体験会の新規実施
 - ・子育て支援事業の会員化
- (4) 働き方改革への取り組み
 - 1) 勤務体制の再検討
 - ・早朝勤務シフト体制と日直制度の再検討
 - 2) 人材育成への取り組み
 - ・幼稚園のキャリアパスの洗い出し

5 法人

1. 重点目標

- (1) 廣池学園創立 100 周年（2035）年に向けた法人ビジョン、中期計画の策定
- (2) 麗澤各校のビジョンの早期実現に向けた施策実行と進捗把握・評価
- (3) 財政基盤の安定化

2. 主な事業計画

- (1) 組織の管理運営体制強化
- (2) 各校ビジョン実現に向けたサポート、および収支改善への取り組み（諸経費の見直し）
- (3) 施設・設備の改善・充実
 - 1) 法人
 - ① 柏・瑞浪のキャンパスマスタープランの作成
 - 2) 麗澤大学
 - ① 新学部校舎整備事業
 - ② 武道館天井非構造部材改修工事
 - 3) 麗澤中学・高等学校
 - ① 校舎空調機の更新工事
 - ② クラブハウス等整備事業
 - ③ 高校女子寮の改築工事
 - 4) 麗澤瑞浪中学・高等学校
 - ① 下水道管改修工事（継続事業）
 - ② 教育システム（サーバー、ネットワーク）の更新
 - 5) 麗澤幼稚園
なし
- (4) 広報活動
 - 1) 社会的評価を得られる PR 活動（メディアリレーション、プレスリリース、ブランディングなど）の体制整備によるブランド・認知向上
 - 2) 麗澤各校の広報活動体制整備（支援）・統括と法人全体の最適な情報発信・情報公開の管理・運用の仕組みの構築
 - 3) 麗澤各校の募集広報支援の実施
- (5) 情報システム部
 - 1) セキュリティ強化を含め将来を見据えた ICT 環境整備を検討する。
 - 2) ファイルサーバーのリソースを有効活用するため保管ルールの改訂を行う。
- (6) 麗澤教育の推進
 - 1) 初代学長・校長廣池千英先生の業績整理
 - 2) 新規着任教諭に対する麗澤教育の理念のさらなる理解のための支援

Ⅱ. 組織

1. 役員・評議員（2022年5月1日現在）

理事（定数13人、現員13人）

理事長 廣池幹堂

常務理事 竹政幸雄、徳永澄憲、山崎裕二、野本廣之

理事 岩澤知子、櫻井 讓、鈴木規子、中澤裕隆、西 裕康、橋本光世、藤田知則、
松浪 進

監事（定数2～3人、現員2人）

濱井利一、風澤俊夫

評議員（定数27人、現員27人）

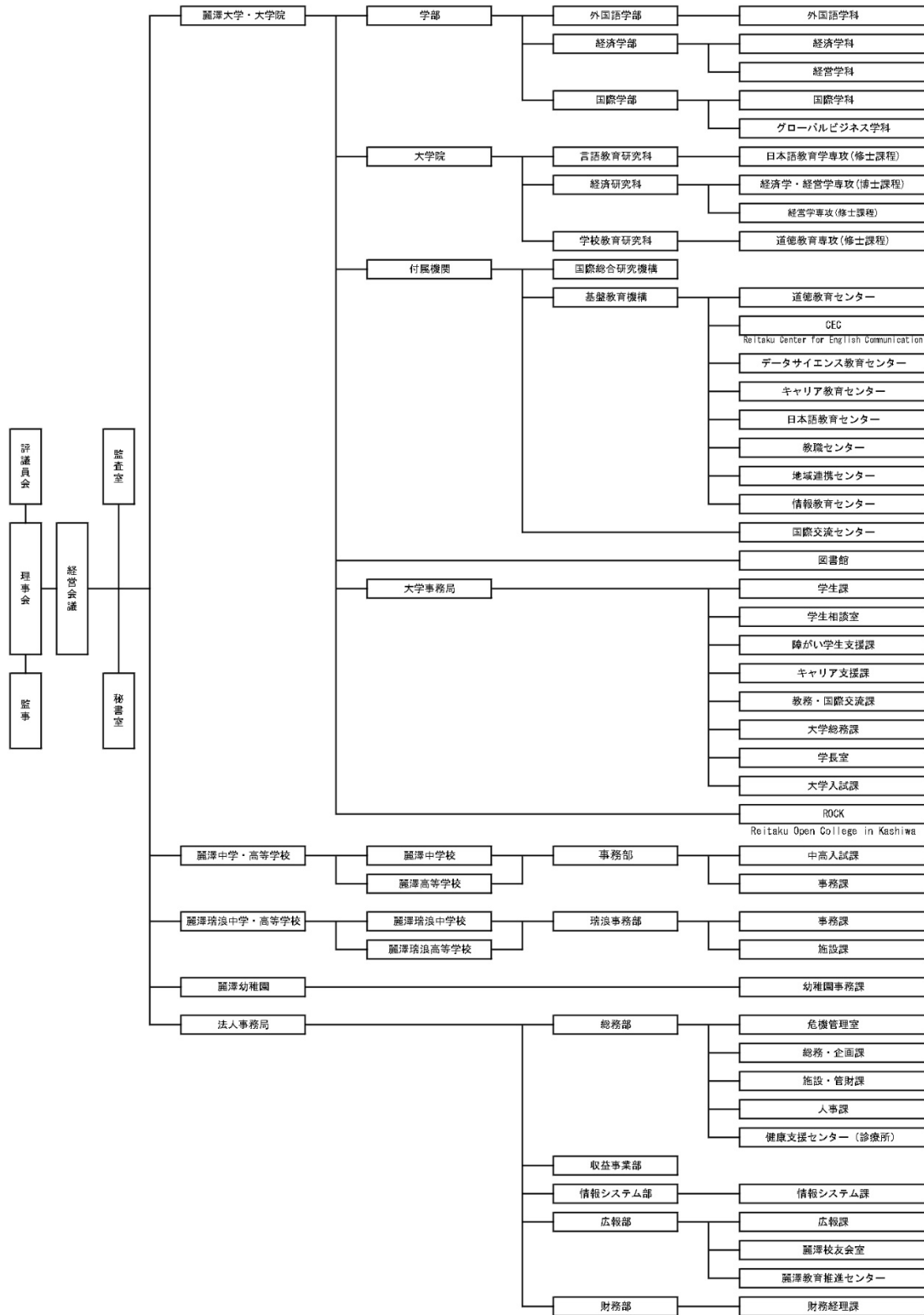
安達 肇、岩澤知子※、大木悦子、上村昌司、川島正敬、黒須里美、小出 進、琴谷達郎、
櫻井 讓※、白澤美幸、鷺見仁美、竹政幸雄※、田村 環、徳永澄憲※、中澤裕隆※、
中山理恵、西 裕康※、野林靖彦、野本廣之※、廣池英行、廣池幹堂※、藤田知則※、
古川正儀、堀内一史、松浪 進※、山崎裕二※、渡邊 信

※印は理事兼任者

2. 組織図

(2022年4月1日現在)

2022年4月1日付 学校法人廣池学園組織図



3. 教職員の構成

(2022年4月1日現在)

区分	専任教職員			非常勤講師			常勤嘱託			非常勤嘱託 パート嘱託			総計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
教育職	麗澤大学	76	37	113	57	29	86	-	-	-	-	-	-	133	66	199
	麗澤高等学校	46	14	60	12	8	20	-	-	-	-	-	-	58	22	80
	麗澤中学校	23	14	37	3	5	8	-	-	-	-	-	-	26	19	45
	麗澤瑞浪高等学校	30	7	37	0	5	5	-	-	-	-	-	-	30	12	42
	麗澤瑞浪中学校	15	6	21	1	1	2	-	-	-	-	-	-	16	7	23
	麗澤幼稚園	2	15	17	0	14	14	-	-	-	-	-	-	2	29	31
小計	192	93	285	73	62	135	-	-	-	-	-	-	265	155	420	
一般職・技能職・現業職	監査室	0	0	0	-	-	-	1	0	1	0	0	0	1	0	1
	秘書室	1	1	2	-	-	-	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	大学事務局	24	22	46	-	-	-	3	11	14	1	12	13	28	45	73
	麗澤中高事務部	7	6	13	-	-	-	0	3	3	2	4	6	9	13	22
	麗澤瑞浪事務部	10	3	13	-	-	-	3	4	7	0	4	4	13	11	24
	麗澤幼稚園事務課	0	1	1	-	-	-	0	1	1	0	1	1	0	3	3
	総務部	15	7	22	-	-	-	1	2	3	2	4	6	18	13	31
	情報システム部	5	1	6	-	-	-	1	1	2	0	1	1	6	3	9
	広報部	4	2	6	-	-	-	1	1	2	1	1	2	6	4	10
	財務部	5	1	6	-	-	-	0	1	1	0	1	1	5	3	8
小計	71	44	115	-	-	-	10	24	34	6	28	34	87	96	183	
総計	263	137	400	73	62	135	10	24	34	6	28	34	352	251	603	

注1) 役員・顧問7名は除いた。ただし、教職員給与の支給のある常務理事は専任教職員に含めた。

注2) 専任教職員(教員)の中には嘱託専任教員を含めた。

注3) 無給者(客員教授26名)は除いた。

注4) 公益財団法人モラロジー道德教育財団への出向者1名は総務部へ含めた。

注5) 瑞浪出向者3名は麗澤瑞浪事務部へ含めた。

Ⅲ. 予算

1. 資金収支予算

資金収支予算書

令和4年4月1日から
令和5年3月31日まで

(単位 円)

収入の部				
科	目	令和4年度予算	令和3年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入		4,196,974,000	4,282,236,000	△ 85,262,000
手数料収入		89,104,000	91,852,000	△ 2,748,000
寄付金収入		418,983,000	627,527,000	△ 208,544,000
補助金収入		1,196,110,000	1,165,540,000	30,570,000
資産売却収入		0	500,000,000	△ 500,000,000
付随事業・収益事業収入		549,572,000	588,770,000	△ 39,198,000
受取利息・配当金収入		196,000,000	201,000,000	△ 5,000,000
雑収入		171,305,000	224,819,000	△ 53,514,000
借入金等収入		0	0	0
前受金収入		1,759,215,000	1,792,573,000	△ 33,358,000
その他の収入		1,243,553,000	1,680,589,000	△ 437,036,000
資金収入調整勘定		△ 1,759,215,000	△ 1,792,573,000	33,358,000
前年度繰越支払資金		4,364,581,000	4,113,679,000	250,902,000
収入の部合計		12,426,182,000	13,476,012,000	△ 1,049,830,000
支出の部				
科	目	令和4年度予算	令和3年度予算	増 減
人件費支出		3,596,276,000	3,604,026,000	△ 7,750,000
教育研究経費支出		1,525,142,000	1,429,788,000	95,354,000
管理経費支出		1,019,398,000	1,078,426,000	△ 59,028,000
借入金等利息支出		0	0	0
借入金等返済支出		0	0	0
施設関係支出		258,588,000	528,255,000	△ 269,667,000
設備関係支出		202,155,000	113,775,000	88,380,000
資産運用支出		1,300,000,000	2,210,586,000	△ 910,586,000
その他の支出		231,461,000	138,990,000	92,471,000
[予備費]		20,000,000	20,000,000	0
資金支出調整勘定		△ 31,167,000	△ 40,301,046	9,134,046
翌年度繰越支払資金		4,304,329,000	4,392,467,046	△ 88,138,046
支出の部合計		12,426,182,000	13,476,012,000	△ 1,049,830,000

2. 事業活動収支予算

事業活動収支予算書

令和 4年 4月 1日から
令和 5年 3月31日まで

(単位 円)

		科 目	令和4年度予算	令和3年度予算	増 減
教育活動収支	収入の活動	学生生徒等納付金	4,196,974,000	4,282,236,000	△ 85,262,000
		手数料	89,104,000	91,852,000	△ 2,748,000
		寄付金	420,216,000	628,666,000	△ 208,450,000
		経常費等補助金	1,196,110,000	1,165,540,000	30,570,000
		付随事業収入	534,330,000	576,180,000	△ 41,850,000
		雑収入	171,305,000	224,284,000	△ 52,979,000
		教育活動収入計	6,608,039,000	6,968,758,000	△ 360,719,000
教育活動収支	支出の活動	科 目	令和4年度予算	令和3年度予算	増 減
		人件費	3,611,141,000	3,568,766,000	42,375,000
		教育研究経費	2,543,986,000	2,435,859,000	108,127,000
		管理経費	1,250,563,000	1,308,900,000	△ 58,337,000
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	7,405,690,000	7,313,525,000	92,165,000
教育活動収支差額			△ 797,651,000	△ 344,767,000	△ 452,884,000
教育活動外収支	収入の活動	科 目	令和4年度予算	令和3年度予算	増 減
		受取利息・配当金	196,000,000	201,000,000	△ 5,000,000
		その他の教育活動外収入	15,242,000	12,590,000	2,652,000
	教育活動外収入計		211,242,000	213,590,000	△ 2,348,000
	支出の活動	科 目	令和4年度予算	令和3年度予算	増 減
		借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出		0	0	0	
教育活動外支出計		0	0	0	
教育活動外収支差額			211,242,000	213,590,000	△ 2,348,000
経常収支差額			△ 586,409,000	△ 131,177,000	△ 455,232,000
特別収支	収入の活動	科 目	令和4年度予算	令和3年度予算	増 減
		資産売却差額	0	81,222,000	△ 81,222,000
		その他の特別収入	4,770,000	3,103,000	1,667,000
	特別収入計		4,770,000	84,325,000	△ 79,555,000
	支出の活動	科 目	令和4年度予算	令和3年度予算	増 減
		資産処分差額	219,902,000	22,561,000	197,341,000
その他の特別支出		0	0	0	
特別支出計		219,902,000	22,561,000	197,341,000	
特別収支差額			△ 215,132,000	61,764,000	△ 276,896,000
〔予備費〕			20,000,000	20,000,000	0
基本金組入前当年度収支差額			△ 821,541,000	△ 89,413,000	△ 732,128,000
基本金組入額合計			△ 288,066,000	△ 401,874,000	113,808,000
当年度収支差額			△ 1,109,607,000	△ 491,287,000	△ 618,320,000
前年度繰越収支差額			△ 3,744,526,000	△ 3,458,957,000	△ 285,569,000
基本金取崩額			868,621,000	6,030,000	862,591,000
翌年度繰越収支差額			△ 3,985,512,000	△ 3,944,214,000	△ 41,298,000
(参考)					
事業活動収入計			6,824,051,000	7,266,673,000	△ 442,622,000
事業活動支出計			7,645,592,000	7,356,086,000	289,506,000